

# 鎮守の森の 大木と石

香南市吉川支所西隣の西徳善八幡宮境内には南北に二本の大楠、そして「ばんもち石」と呼ばれる巨大な石があるのをご存知だろうか。私たちの何世代も前から地域とともにあった大木と大石の歴史について、吉川村史編集委員だった増井はつこさん、福留瑞男さんに話を伺った。

広報編集委員 島崎則彦



西徳善八幡宮境内にある大楠

## 地震と津波に耐え

「木に登ってターザンごっこ、えのみ鉄砲を作って撃ち合い…学校の行き帰りの絶好の遊び場じゃったねえ。近くの古老が懐かしむ。大楠は幹周りが五メートル以上で樹齢五百年とも六百年とも言われ、「土佐の古木リスト」に数えられている。空一面を覆うかのように茂る葉は壮観で、夏場は絶好の涼み場だ。

恐ろしいほどに盛り上がった強靱な根元には風格すら漂う。海辺に近いこの場所、安政、宝永、さらに昔の慶長の南海地震の揺れと津波に耐え抜いてきたことをあらためて実感した。

## 力自慢の証しに

境内にあるもう一つの歴史の証人、ばんもち石は「盤持石」「番持石」などと書かれ、その大きさにふさわしいエピソードを持っている。



▲境内にあるばんもち石

案内板によると「重さが四十貫(約百五十キロ)あり、その昔村人たちが力自慢をした」という。「しであげ」と呼ばれた祭りの余興で、若い衆がこの石を持ち上げ、力を競い合っていたのだ。

地元の相撲選手・故西内好雄さんは「この石を担いだのは楠目の相撲取り八幡山と吉川村では大阪湾で仲仕をしていた河村与之助の二人だけである」と話していた。

## ちらいもつ一人

昭和初期に書かれた南国市立田村史の人物伝に次のような記述がある。

## 心のふるさとを守る

「…北村嘉治蔵は有名な力士で總角と呼ばれていた。…或年の夏、内で栽培した甜瓜を笥に入れて行商に出かけた。途中余り暑いので芳原の氏宮に入り宮林の木陰で涼んで居る内、ふと境内に大きな盤持石の転がっているのを見て、此れに近寄り草鞋ばきのまま足さきで、その大石をふみ動かそうとした。丁度此宮林の木陰で草履を作っていた一老人が「こりや兄さんてんごうすまい、其石はお前が足でふんだ位で動きはせんぜよ」と言ったが嘉治蔵は微笑浮かべながら笠をぬぎ、静かにその大石をかたいで老人に見せた。老人は大力に驚嘆し、やがて駆け出し、近傍の人達を呼び集めて来、今一度と切願し、持っていた甜瓜も全部さばいてくれた」とさう、その時の人々の驚くさまが目に見え、うだ。

実は境内の大楠は以前、前を通る県道の拡幅に伴って伐採計画が出たことがある。結局、住民や子どもの強い願いで難を逃れたこともあり、「以前のようにみんなの憩いの場になってほしい」と、定期的な掃除にも力がこもっている。周囲の雑木が切り開かれて明るくなった境内は、心のふるさと鎮守の森として、元気に遊ぶ子どもたちや木陰で一息つきに来る皆さんを待っている。

境内で遊ぶ吉川小の1年生



## 編集後記

▼香我美町内で開催された運動会。子どもから高齢の方までが同じ競技に入り交じって出場し、誰もが勝ち負けよりも競技自体を楽しんでいます。そして、選手を見守るまなざしは温かです。まるで、みんなが家族のよう。ホッと嬉しい気分になった日でした。(猪)

▼先月、待望の子どもが誕生しました。毎日かわいと感じ、すでに親ばかぶりを発揮しています。もう少し愛嬌を振りまき始めたら「おおきくなあれ」に投稿しようかと思っています。皆さんもどんどん応募してくださいね。(T)

▼過日、広報研修に参加しました。全国広報コンクールで受賞歴のある鹿児島県霧島市の職員による講義で、広報誌作成に大切なことを伝授。広報は住民を動かし、地域を変えられる一思いと誇りを胸に、これからも香南の「今」を伝えていきます。(S)

▼ことしも子どもたちが待ちに待った夏休みがやってきます！夏休みといえば、海やキャンプに家族旅行、宿題の山…大人になった今も、楽しかった思い出がよみがえります。3〜5ページの「夏祭り・夏ナヒのり」を夏の思い出づくりにぜひ活用ください。(あ)

《広報へのメール》  
kouhou@city.kochi.konan.lg.jp  
《香南市のホームページ》  
http://www.city.kochi.konan.lg.jp

## プ千情報

広報誌の設置場所が増えました。  
●マルナカ野市店・赤岡店  
●A\*MAX赤岡店  
※部数に限りがありますので、ご了承ください

陸上自衛隊高知駐屯地 納涼祭  
日時/8月3日(金)18:00~20:40 ※一般開放は17:00~21:00  
場所/陸上自衛隊高知駐屯地 TEL 0887-55-3171(内線351)  
※シャトルバスあります